

環境調査結果のお知らせ

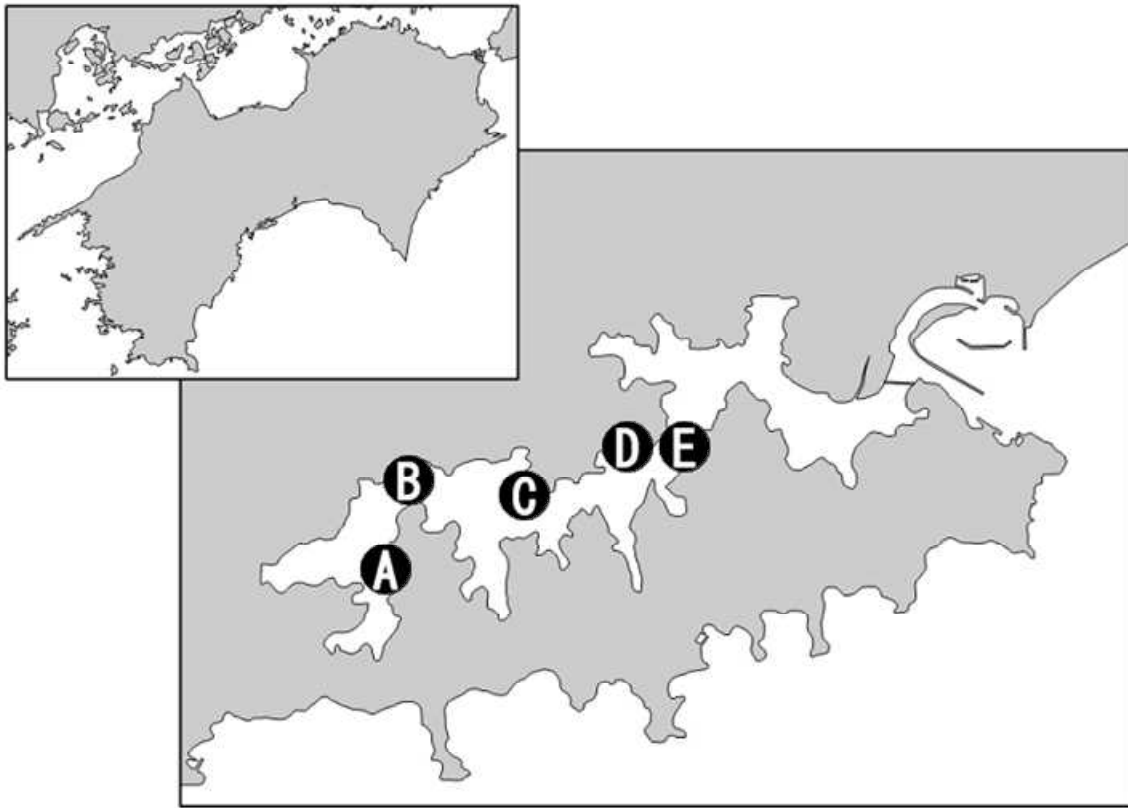
令和7年5月9日12時から浦ノ内湾の環境調査を実施しました。

概況

検鏡の結果、魚類に対して有害なディクチオカ属が最高で232 cells/mL確認されました。

海や養殖魚、貝類の状態に不安や変化を感じた時は、良く洗ったペットボトルに海水を汲むなどして、水産試験場か中央漁業指導所まで連絡してください。

調査点 (透明度) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン	
	深度	水温	塩分	溶存酸素	ディクチオカ 属	珪藻
	(m)	(℃)		(mg/L)		
A 鳴無 (3.6m) 【12:29】	0	20.6	29.0	8.8	0	-
	2	22.4	32.1	8.7	0	-
	5	21.1	32.9	8.6	0	-
	底層 8	20.5	33.0	7.1	0	-
B 中学校前 (4.4m) 【12:36】	0	20.8	30.0	8.5	0	1
	2	22.0	31.7	8.7	0	0
	5	21.0	32.8	8.7	0	0
	10	20.2	33.1	7.6	11	0
	底層 11	19.8	33.1	6.6	9	0
C 目ノクソ (3.6m) 【12:45】	0	21.2	31.0	8.5	0	-
	2	21.8	32.2	8.3	0	-
	5	20.6	32.7	8.3	2	-
	10	19.8	33.1	7.3	84	-
	底層 14	19.0	33.1	5.7	134	-
D 光松 (2.5m) 【12:54】	0	21.1	31.2	9.0	0	11
	2	21.3	32.2	8.8	0	3
	5	20.6	32.6	8.1	22	0
	10	19.8	33.0	7.2	232	0
	底層 16	19.0	33.2	4.1	4	0
E 大鹿 (2.8m) 【13:02】	0	21.2	31.3	8.8	0	-
	2	21.2	32.0	8.4	0	-
	5	20.3	32.7	8.0	31	-
	10	19.8	33.0	7.2	181	-
	底層 16	19.0	33.2	4.5	121	-



- A: 鳴無
B: 中学校前
C: 目ノクソ
D: 光松
E: 大鹿

参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準（※1）	警戒基準（※2）	主な赤潮発生時期 ※3		
				浦ノ内湾	野見湾	宿毛湾
<i>Karenia mikimotoi</i> (カレニア・ミキモトイ)	魚類等のへい死	100 cells/mL	1,000 cells/mL	5～8月	6～8月	—
<i>Chattonella</i> spp. (シャットネラ属)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	6～8月	—	—
<i>Cochlodinium polykrikoides</i> (コクロディニウム・ポリクリコイデス)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	—	2～4月	5～6月
<i>Heterosigma akashiwo</i> (ヘテロシグマ・アカシオ)	魚類等のへい死	5,000 cells/mL	50,000 cells/mL	3～12月	4～8月	4～11月
<i>Dictyocha</i> spp. (ディクチオカ属)	魚類等のへい死	—	5,000 cells/mL	6～7月	4月	—
<i>Takayama</i> spp. (タカヤマ属)	魚類等のへい死	—	10,000 cells/mL	8～9月	—	—
<i>Heterocapsa circularisquama</i> (ヘテロカプサ・サーキュラリスカーマ)	二枚貝のへい死	—	500 cells/mL	8～11月	—	—
<i>Alexandrium</i> spp. (アレキシサンドリウム属)	二枚貝の毒化	10 cells/mL	100 cells/mL	—	1～4月	3～5月
<i>Gymnodinium catenatum</i> (ギムノディニウム・カテナータム)	二枚貝の毒化	—	1 cell/mL	—	—	2～7月

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度

※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死並びに二枚貝の毒化が想定される密度

※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。